

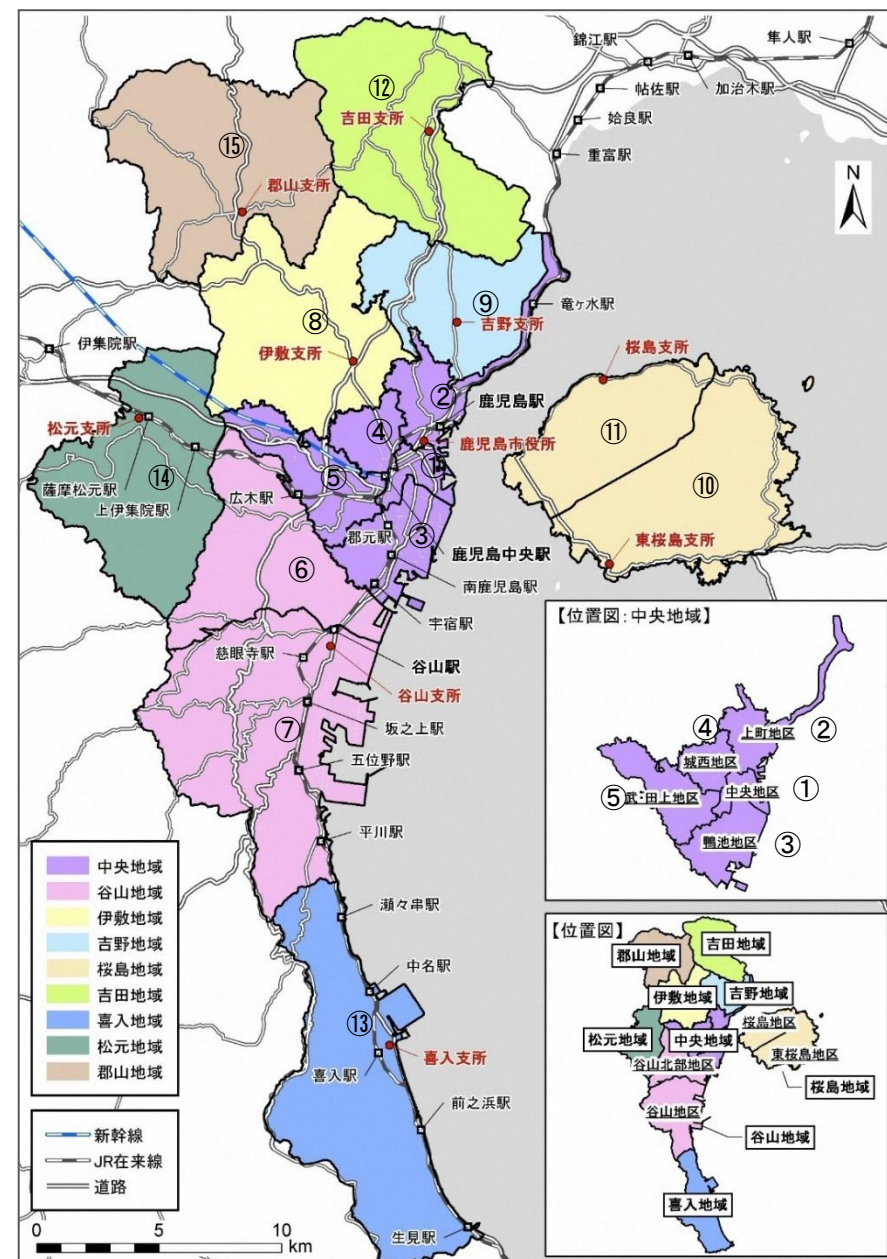
市民意識調査結果

(1) 市民意識調査の目的

第二次かごしま都市マスタープラン（仮称）策定に先立ち、都市づくりに係る市民の意識を把握し、市民の意向を踏まえたプラン策定を行うために実施したもの。

(2) 調査方法及び回収状況

対象者	市内に居住する満 16 歳以上 6,000 名（15 地域・地区別の人口に基づき無作為抽出）
方法	配付：郵送、回答：郵送及び Web
期間	平成 29 年 11 月 6 日～24 日（19 日間）
回収状況	回収総数：2,681 票（回収率 44.7%） うち Web 回収数：162 票（回収総数の 6%）



15 地域・地区	
中央地域	①中央地区 ②上町地区 ③鴨池地区 ④城西地区 ⑤武・田上地区
谷山地域	⑥谷山北部地区 ⑦谷山地区
伊敷地域	⑧伊敷地域
吉野地域	⑨吉野地域
桜島地域	⑩東桜島地区 ⑪桜島地区
吉田地域	⑫吉田地域
喜入地域	⑬喜入地域
松元地域	⑭松元地域
郡山地域	⑮郡山地域

(3) 調査票の設問構成と設問ごとの結果の概要

【結果総括】

全体的な傾向は、概ね、前回調査（H16 年度）と変わっていないが、**自然や歴史を生かす**とともに、**郊外の大規模店舗の立地を抑え**、**中心市街地や支所周辺など身近な地域の拠点性を高める**ことを望む傾向が見られた。

分野	設問	結果の概要
回答者の属性	問 1. 性別	男性 4 割、女性 6 割。（市人口と同じ割合）
	問 2. 年齢構成	60 歳代以上が 5 割を占め、高齢者の割合が高い。
	問 3. 居住（回答）地域	回収率は各地域とも概ね 4 割を超えている。
	問 4. 居住年数	20 年以上の居住者が 5 割を超えている。
身近な地域の評価と優先取組事項 ※1	問 5. 地域の環境評価	生活環境や自然など、ほとんどの項目でプラス評価。「雇用の場の見つけやすさ」のみマイナス評価。
	問 6. 自慢できる場所等	トップは「桜島」。次いで「ウォーターフロント」。
	問 7. 居住継続意向	7 割が「今の地域に住み続けたい」。
	問 8. 地域の優先事項	「公共交通の充実」、「商店街の活性化」、「公園緑地の整備」の順に多い。
	問 9. 利用交通手段等	日常生活のすべての行動で「自動車利用」が大半を占める。
市全体のイメージと将来像	問 10. 現在の市のイメージ	「歴史と文化を生かした観光のまち」と「豊かな自然に囲まれたまち」が突出して多い。
	問 11. 望まれる都市像	「福祉・医療の充実（福祉都市）」、「自然・歴史との調和（環境都市）」の順に多い。
	問 12. まちづくりの優先事項	「交通の利便性向上」、「暮らしの安全確保」の順に多い。
各種まちづくりの優先取組事項	問 13. 歩いて暮らせるまちの優先事項 ※2	「徒歩圏への生活利便施設の立地」、「安全な歩行空間の整備」、「公共交通の充実」の順に多い。
	問 14. 交通の利便性	「バス路線の充実、定時性確保」、「中心部の駐車場整備」の順に多い。
まちづくりへの参加意向等	問 15. 生活基盤施設の整備	「子育て・介護施設の整備」、「歩行空間の整備」の順に多い。
	問 16. 安全なまちづくり	「交通安全・防犯対策の強化」、「斜面防災対策」、「避難場所・避難路の整備等」の順に多い。
	問 17. 環境と調和したまちづくり ※2	「自然環境の保全」、「まちの美化運動の推進」、「歴史的環境の保全・整備」の順に多い。
	問 18. 活気あるまちづくり	「身近な既存商店街の再整備等」、「自然・歴史を生かした観光振興」、「中心市街地の活性化」の順に多い。「 郊外大規模店舗の立地・整備 」は前回から大幅減。
その他	問 19. 市街地の土地利用規制	「良好な街並み等の維持」、「土地の有効利用」、「中心市街地・支所周辺等の拠点性を高める」の順に多い。「良好な街並み等の維持」や「 中心市街地・支所周辺等の拠点性を高める 」は前回から大幅増。
	問 20. 農村地域の土地利用規制	地域の核となる「主要な道路沿道などの開発」、「良好な自然環境等を維持するための開発抑制」の順に多い。
	問 21. 都市計画認知度 ※2	3 割が「ある」または「少しはある」。
その他	問 22. 認知方法 ※2	6 割が「市民広報誌」。
	問 23. 参加意向	5 割の方が参加意向を示している。
その他	自由意見	「公共交通利便性向上」が多い。

※1：身近な地域の評価等は、「かごしま都市マスタープラン」で定める 15 地域・地区の区分で把握。

※2：今回の新たな設問。